

情報かわらばん

田麦山に夢と誇りをつくる

500人プロジェクト通信

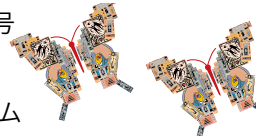


NO. 09

田麦山復興デザイン策定事業
2011.3.1-2012.2.28

2011年10月20日発行 通算9号

発行：田麦山地区連絡会 編集：田麦山に夢と誇りをつくる500人プロジェクト編集チーム



プロジェクトを見える化・現場の声が情報源・わかりやすく編集



絵本と木の実の美術館の一室に鉢の豊かな恵みを頂くカフェがあります

Hachi Cafe

新潟県十日町市大字真田甲
2310-1
025-752-0066
開館期間：4月～11月まで
※十日町雪まつり期間は開館
開館時間：10:00～17:00
休館日：水・木曜日



「絵本と木の実の美術館」

旧真田小学校
(十日町市真田地区 鉢集落)

●廃校を活用した美術館とカフェ

田麦山まちづくりの拠点整備に向けて、コミュニティが経営する食堂兼サロンと、NPO法人が運営する廃校利用の美術館&カフェを視察してきました。最初におじゃました柏崎市北条地区の「暖暖」は、中越沖地震後、買い物難民化している高齢者などを支援するために北条地区コミュニティ振興協議会が設けたコミュニティ食堂兼サロンで、手づくりお惣菜や食事を提供しています。話を聞かせてくださったコミ協の理事さんの戸田洋子さんをはじめ、働いている人は全員女性。おいしいご飯だけでなく、楽

しい昔語りも聴かせていただき私たちを楽ませてくれました。その後、「大地の芸術祭」をきっかけにして、十日町市真田にある旧真田小学校を改装して生まれた「絵本と木の実の美術館」に行きました。絵本から飛び出したダイナミックな展示を見ながらも、「昔の賞状が飾ってあるね」「かつての学校にはこんな道具あったよね」と懐かしむ声が聞こえてきました。まると学校の間を繋ぎ残したまま美術館とカフェに改装したさまざまなアイデアは、田麦山公民館（旧田麦山小学校）の拠点化に向けていい参考になりました。

心もお腹も大満足のコミュニティ食堂と学校の雰囲気を残したままの
2011年10月2日(日) 視察研修
絵本のような驚きの美術館をめぐる一日。

拠点づくりのキーマンは、地域の女性陣！

●コミュニティによる配食サービスと惣菜ビジネス

北条コミュニティ振興協議会
(柏崎市北条地区)

だんだん ふるさと市場 暖暖

新潟県柏崎市大字大広田 92-3
0257-25-3211
越後広田駅より歩いて4分
営業時間：11:00～16:00
定休日：日曜日・月曜日



夢で羽ばたく田麦山。夢は、見るもの？ つくるもの？ 誇りは、あるもの？ 育てるもの？ それとも、思い出すもの？ 答えはあなたの中に。

こどもたちの想い

まちづくり拠点のイメージ

① 図書館でいっごでも楽しい本を
読めるようにしたい！

② 体育館や学校にいっごでも

入れるようにして欲しい

③ 体育館を飾り

(こども、大人が描いた絵)
でいっぱいにしたい

子どもたちが考えた

公民館改造計画

田麦山のまちづくりの拠点計画は、デザイン策定事業の大きな柱となっています。この拠点計画を一つひとつステップを踏んで進めています。現在、目的を固め、拠点の将来イメージをつくりあげるところまでできました。

これには、大人がまとめた成果と共に、子どもたちが希望する公民館改造計画の成果があり、今回の通信ではこの二つを見比べてみました。

「地域が責任を持って経営する住民のための地域センター」こそ、子どもたちの希望をかなえられるものではないかと思えてきます。いかがでしょう。あなたはご想像されますか。この計画づくりには誰もが参加できます。あなたのひと言をお寄せ下さい。

④ 学校全体を使って

宝さがしゲームをしたい

⑤ 水曜日にカルタ大会を

やりたい(月3回)

⑥ 教室を

秘密基地にしたい！

子ども向けワークショップ

TAMUGIYAMA 未来創造大作戦

9月3日 ふるさとのお宝発掘ツアー

9月24日 子どもたちの公民館改造計画



大人たちの想い

大人が考えた
拠点の将来イメージ

〈ディスカッションで出された意見〉

現在の公民館（旧小学校校舎）では、
拠点としての機能が100%果たせない

それはなぜか……

- ・常駐する職員がいない
- ・鍵の一元管理ができない
- ・制約が多い（自由にならない）
- ・責任の所在が明確になっていない



田麦山地区を対象エリアとした長岡市のま
ちづくり協議会を発足させることができ
ないか。そうすれば公民館を地域コミュニ
ティセンターとして再生させることができ
る。



長岡市との協議が必要

拠点の将来イメージ
地域が責任を持って経営する
住民のための地域センター

大人が考えた拠点イメージ

スポーツ、キャンプの拠点



福祉、医療の場

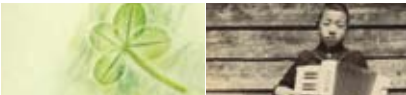


住民の健康
を維持する

子どもたちの遊び場



子どもたちの学び場



子どもたちの
居場所

モノづくり、アーティストの工房



特産品づくりの工房



モノづくり
工房

食堂と居酒屋



お茶のみができるサロン



住民の
交流サロン

様々なイベントが実施できる空間



各種イベント
実施会場

宿泊ができる拠点



宿泊施設



今後の予定

11月14日(月):拠点づくりワークショップ

時間：19：30～21：00

場所：田麦山公民館

定例会が拠点づくりワークショップとして田麦山公民館を会場にして開かれます。ぜひ皆さまご参加下さい。どなたでもご参加が可能です。

1月28日(土):デザイン策定成果発表会と第2回学習会

田麦山連絡会で進めてきた「田麦山復興デザイン策定事業」の発表会を行います。また、同時に第2回の学習会を開催します。第1回で大好評だった結城登美雄さんをお招きして、地域が運営する拠点の在り方について学びます。

※学習会に関しては、先号で10月23日開催のご案内を掲載しましたが、1月に順延となりました。

※田麦山に夢と誇りをつくる500人プロジェクトのブログもご覧ください。
<http://tamugiyama.exblog.jp/>



編集後記

子どもたちが希望する公民館改造計画は、とてもストレートに響いてきます。リラックスした中で真剣に取り組んだからでしょう。

最近、我が家の子どものたちが「ぼくらの七日間戦争」をはじめとしてシリーズ化されている宗田理の小説に夢中です。

子どもたちにとって理不尽な大人たちに抵抗し、痛快に大人たちを懲らしめる作品らしいのですが…。子どもたちの話は、正面向いて聞こうと思った次第です。



田麦山は、地震により約四〇戸あまりの人口が流出しました。現在、世帯数一〇〇戸、人口約五〇〇人です。しかし、地域活動は活発で、二〇以上の団体が独自の事業を展開しています。そんな中、自治会の田麦山協議会が中心になり繋がりある組織で関わりある事業は、協働でやればと「田麦山連絡会」が昨年四月に発足しました。

地震で多くの住宅が新築され定住の地として決めたここ田麦山にとって、少子高齢化など集落の問題に関して例外では

ありません。「田麦山連絡会」は、田麦山将来ビジョン(デザイン策定)が必要と「集落の維持」、「田麦山がどうなればよいのか」検討をしてきました。

田麦山の現状を明らかにして「世帯・人口」「歴史・文化」「食・自然・技資源」「各施設利用」から、田麦山がするべきことをワークショップ、田麦山歩き、先進地視察、勉強会などとして行なってきました。

まだまだ、地域全体に広がるには我々の努力が必要ですが、機会をとらえて一

人ひとりの思いを写真に撮り、公民館に展示していっています。それが、「田麦山に夢と誇りをつくる五〇〇人プロジェクト」のシンボルです。

子供目線も大切にしたいと、自然・施設探検が行われました。子どもたちの希望を聞くと、公民館には、自由に遊べる・利用できる場として管理人の常駐が求められることがわかってきました。

また、現在、歴史・文化部では、昔の踊りを継承しようとしています。新たに女性の参加があったり、見まね練習で発



子どもたちの希望を集めたワークショップ。この成果は大切にしたいものです。

表に向けて取り組まれています。一人ひとりができることで、つくりあげていく集落を目指したいものです。

一人ひとりができることで
定住の地、田麦山をつくりあげていきたい。
子どもたちの視線を大切にすることが必要！

連絡会メンバーコラム

田麦山連絡会
大淵 昇

